

千葉市史編さん担当

〒 260-0856
千葉市中央区亥鼻 1-6-1
千葉市立郷土博物館
TEL 043-222-8231



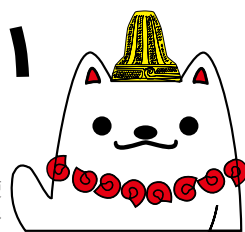
編さん便り

chiba-shishi News Letter NO.18 2017.3

全国初の貝塚特別史跡化へ

加曽利貝塚への想い —破壊からの回避—

加曽利貝塚PR大使
かそりーぬ



破壊を回避するために

昭和 37 年、加曽利貝塚は宅地開発により破壊の危機に直面します。この保存を世論にうったえるため、武田宗久氏が千葉市教育委員会の業務として、発掘調査を実施しました*1。このとき発掘した現場は、すぐには埋め戻さず、一か月間一般に公開されました。この遺跡がどれだけ重要なものであるか、市民へうたえるためです。こうした活動により、加曽利貝塚を保存すべきという要望が各所からあがり、同 39 年には、千葉市は加曽利北貝塚とその周辺約 55,000㎡を買収するにいたります。

実はこの「北貝塚とその周辺」の買収ということが問題で、南貝塚も重要だが全面的買い上げは困難とされていました。北貝塚は保存が決まり、史跡公園として整備される一方、南貝塚は発掘調査によって重要性を確認することになったのです。

同 38 年 11 月号の市政だよりでは、「世界的な埋蔵文化財」であることを大きく取り上げたうえで、「南貝塚」の保存についての危機感を示しています。中



「貴重な土器など発見 加曽利貝塚の発掘調査」（昭和 37 年 9 月 30 日発行「千葉市政だより」）

宅地造成が調査の前提であることにふれ、千葉高教諭武田宗久氏や早大考古学研究室の金子浩昌氏の指導で、「今回が最終調査」と書かれています。

加曽利貝塚は、全国に 2,400 か所ある縄文時代の貝塚のなかで、集落を伴う「ムラ貝塚」としては日本最大級の貝塚です。平成 29 年 1 月、国特別史跡指定に関する意見具申書が文化庁へ提出され、加曽利貝塚は着々と特別史跡への道を歩んでいます。
特別史跡とは、国が文化財保護法で指定した史跡のうち、学術上の価値が特に高く、わが国の文化の象徴たるものです（国宝と同格と考えていただければいいでしょう）。もし決定すれば、貝塚では初の指定となります。

本号では、千葉市民なら一度は訪れたことがある（であろう）千葉市の宝・加曽利貝塚について、その破壊の危機に際し、発掘が盛んに行われていたころの「市政だより」から、当時のようすや関係者の想いの一端をみていきます。

「日本有数の大貝塚」「世界的な埋蔵文化財」

加曽利貝塚は、その規模から上記のように称され、かなり早い段階からその存在を知られていました。

はじめて学会にその存在が紹介されたのは、明治 20 年（1887）、上田英吉氏の「下総国千葉郡介墟記」（『東京人類学会雑誌』第 2 巻第 19 号）によってでした（このとき上田氏は個別の貝塚名を付けていません）。その後明治 40 年 10 月 20 日には東京人類学会第三回遠足会で調査がなされ、これ以後「加曽利貝塚」という呼び名が一般化しました。

その後、大正 13 年（1924）に小金井良精博士に人骨を提供するため、帝大人類学教室が応援する形での発掘が行われました。このときの地点ごとの層位的な発掘（貝塚全体を A～D の 4 区画に分けて地形測量を行いました）によって、加曽利 E 式→加曽利 B 式という、土器形式の編年序列が確認されました。

昭和 10 年代にも何度か調査が行われ、同 33 年（1958）には、明治大学考古学研究室が発掘を行いました（昭和 44 年〈1969〉11 月 1 日号の市政だよりでも、加曽利貝塚の研究史が紹介されています）。

平成29年度 千葉市史主催 講座のご案内

1 市史研究講座「千葉市域や近隣地域の歴史を学ぶ」

定員；200 名 会場；千葉市生涯学習センター 2F ホール
対象；一般

全 2 回（1 回 2 講演、各講演 80 分）

講演 1；13:30 ～ 14:50 ／講演 2；15:10 ～ 16:30

日程及び各回のテーマは下記の通りです。

第 1 回 6/24 (土)	1	房総の古代鉄器文化をさぐる ——千葉市域の発掘調査成果を中心に—— 神野 信 先生 (千葉県教育庁文化課)
原始古代・ 中世	2	戦国後期の本佐倉城と交通 遠山 成一先生 (千葉県立佐倉東高等学校教諭)
第 2 回 7/22 (土)	1	上総八幡湊と五大力船 ～市川本店、飯香岡八幡宮文書を中心に～ 山岸 弘明先生 (市原の古文書研究会代表)
近世・ 近現代	2	埋立てはじめる ——日立航空機から川崎製鉄へ—— 池田 順 先生 (千葉市史編集委員会委員長)

*市政だより（5 月 15 号）にて募集します。

後日、タイトルが変更される場合があります。

予めご了承ください。

2 古文書講座

初級古文書講座

「江戸時代の村の古文書を読む」

古文書解読初心者を対象。テキストは江戸時代に書かれた古文書の複写。くずし字の基礎を学ぶ講義形式の講座。
全 6 回。講師は小代渉先生（柏書房株式会社編集部）。
日程は 5/ 6 ・ 6/ 3 ・ 7/ 1 ・ 7/29 ・ 8/ 5 ・ 9/ 2
(いずれも土曜日)。

同じ内容で午前・午後の部の 2 回に分けて開催。

午前は 10:00 ～ 12:00、午後は 13:30 ～ 15:30。

*市政だより（4 月 1 日号）にて募集します。

中級古文書講座

「江戸時代の村の史料を読む」（仮）

古文書に慣れ、ある程度読める方を対象。テキストは江戸時代に書かれた古文書の複写。全 6 回。

講師は後藤雅知先生（立教大学文学部教授、千葉市史編集委員）を予定。日程は未定（市政だよりにて募集予定）。

*詳しい日程は市政だより・郷土博物館 HP 等でお知らせいたします。

*古文書講座初級（午前・午後とも）・中級いずれも定員は 40 名、会場は千葉市立郷土博物館講座室です。

【申込方法】いずれの講座も往復葉書・電子申請でのお申し込みです。

住所・氏名(ふりがな)・年齢・性別・電話番号を明記のうえ、千葉市史編さん担当までお申し込みください。

葉書の場合、一枚につきお一人のご応募となります。

電子申請の方法ほか詳細は市政だより・千葉市立郷土博物館 HP にてご確認ください。

千葉市立郷土博物館

検索

CLICK!

※お申込み多数の場合、抽選となります。

問い合わせ先

〒 260-0856 千葉市中央区亥鼻 1-6-1
千葉市立郷土博物館 市史編さん担当
TEL 043-222-8231

資料、
求め。

『千葉市史』編さんのため、古い資料・昔の写真などの情報を集めています。ご家庭で撮影されたスナップ写真も、当時の「千葉」をみることで貴重な資料です。いわゆる「古文書」も大歓迎です。聞き取り調査も行いたいと思っています。戦時中の体験、幼い頃の記憶など、千葉市域に関してお話しただけの方がおられましたら、ご連絡ください。ご提供頂いた資料、伺ったお話の内容の扱いには、十分配慮致します。皆さまからの情報提供をお待ちしています。

➤ 心となって発掘調査をした武田宗久氏は、この文章のなかで「(…前略…)」しかし加曽利貝塚の特色は時代を異にする二つの大集落址が南北に並んでいる点にあるのですから、南の環もぜひ保存することが必要です。そのためには市民のみなさんが大遺跡を郷土の誇りとして、その保存を国や県にお願いすることが大切なことだともいいます。」と述べ、市民へ呼びかけています。

この南貝塚の危機に対し、発掘で明らかになった事実をもって保存の必要性を訴える必要から、日本考古学協会による調査を要望しました。これをうけ、39年7月、日本考古学協会は加曽利貝塚調査団を編成、南貝塚の地形測量と貝層分布状況の調査を行いました*2。

昭和39年10月号「市政だより」では、発掘調査が

進んでいることを大きく取り上げ、4,000年前の人骨や土器・土偶などの写真とともに、調査団長の滝口宏氏の談話が掲載されています。

この談話のなかで滝口氏は「貝塚公園の博物館」について触れ、市民へ支援を呼びかけています。以下、その箇所を抜粋してみましょう。

(…前略…) それらが、数年後には、整備された貝塚公園の博物館に収められる。加曽利貝塚が新しい形で脚光をあびるであろう。文化財保護とその活用の典型的な姿がここに示され、市の名所の一つになるものと思う。市民各位にその日を期待して戴きたいし、そこに到達するまでのいつそうのご支援を心からお願いするものである。

保存へ向けて―加曽利貝塚博物館の開館と史跡指定―

昭和40年6月号「市政だより」では、加曽利貝塚を公園とする計画について、トップニュースとして掲載しています。皇太子の貝塚見学が5月20日にあったことや、公園の計画が書かれています。「…園内には休憩所をつくり池をつくつて丸木舟を浮かべ、春の花、秋の紅葉など美しい環境の中で貝塚の勉強ができるように計画しています。このほか当時の人々の生活と密接な関係のあったシカの放し飼いやも考えています」と書かれ、「四千年前の世界を再現」しようという意気込みがみてとれます。翌41年12月号では、同年11月24日に開館した貝塚博物館の写真も掲載されています*3。

その後、南貝塚の土地も買収、46年に北貝塚が「加曽利貝塚」として国の史跡に、52年には南貝塚が追加で指定され、ほぼ全域が保存されることになりました。

千葉市内の貝塚調査について、『千葉いまむかし』28号に堀越正行氏が「千葉市の貝塚調査史と人骨」でまとめられています。ご興味もたれた方はぜひご一読ください。

あれから70年 千葉市の戦後70年を考える ―故松本貞雄氏の資料から

戦時下の町内会事情（2） 銃後の生活

故松本貞雄氏資料には、展示で用いたパネルや写真など、さまざまな資料が残されていますが、戦時下の町内会でまわされた回覧なども多く残っています。前回（No.16）に引き続き、今回はそのなかから「銃後の生活」がみえるものをいくつかご紹介しましょう。

左の写真は、昭和18年度の「配給関係書類」と題された冊子に綴じ込まれていた、「家庭用砂糖回数購入券」です。これは、一枚の大きさは不明ですが、どうやら複数枚印刷されており、切り取って使うものです。表面は昭和18年に「家庭用燐寸購入券送付の件」として千葉市役所（配給係）から蘇我町二丁目第一町内会長宛に出された通達で、有効期限の切れた回数購入券の裏面を再利用したものだろうと考えられます。

ここからも明白のように、戦時中は紙しかり、砂糖しかり、全てのものが品薄でした。出征中の兵士を支える「銃後の生活」も、なかなか大変なものでした。右の写真は、正月料理の講習会の知らせです。「国策に適した手軽で美味な服部式正月料理」「午後の三時間を無駄なき調理に銃後の保健」などといったあおり文句



- *1 昭和37年8月9日付『千葉日報』で、発掘成果が紹介されています。
- *2 昭和39年8月9日付『朝日新聞』には「定説修正に資料」、同月13日には「四千年前の女の骨 ほぼ完全な形で」などの見出しで大きく紹介されました。
- *3 昭和42年4月1日号「市政だより」には博物館の広告が掲載され、市内施設見学会のコースにも組み入れられています。

が目を引きます。「非常時ニハ心シテ手軽デ経済ナ正月ノ重詰ヲ作りマシテ近頃ノ様ニ品物不足ノ場合ハ特ニ調理方ヲ注意シテ無駄ナク」指導すると書いてあり、品不足であっても、正月にはいつもと違う特別な料理を、と家庭の主婦たちが工夫している姿が浮かびます。

先の「配給関係書類」の綴りには、「枇杷特別配給ノ件」という通達があります。「百匁（約400g）に付き貳拾六銭」がたとえ他のものに比べて高額であったとしても、「関係各方面の御助力に依り臨時に」配給されることになったビワに、町内の人々はどんなにか喜んだでしょう。昨年より話題になっている「この世界の片隅に」という映画でも、銃後の生活が描かれています。呉を舞台にしたこの映画の主題は、もちろんそれだけではありませんが、主人公が家族の食事を少しでも豊かにしようと工夫している姿などは、今回ご紹介した史料とも共通するところかもしれません。

銃後の生活は、節約がモットーではありますが、それでもどうにか楽しみを、という努力がされていたのです。



松本氏資料 5-1-4-1 ②



「加曽利貝塚の発掘すすむ 完全に残す古代の姿」(昭和39年10月号「千葉市政だより」) “将来は市の名所に”